

# 大分市子どもの生活実態調査の実施について

## 1. 調査の目的

平成30年度に、子どもの生活環境や家庭の実態を把握し、分析することにより、本市の課題や特性を踏まえた子どもの貧困にかかる基礎資料とすることを目的として、1回目の調査を実施した。

前回調査から5年が経過し、前回調査後の生活実態の変化を踏まえた子どもの貧困対策に係る基礎調査及び次期すくすく大分っ子プラン策定に係る基礎調査として、令和5年度に2回目の調査を実施する。

## 2. 調査の概要

子どもや保護者に対し、生活環境などについて質問する「子どもの生活実態調査」と、子どもの支援機関等から見た子どもの生活実態の把握を行う「子どもの支援機関に対する資源量調査」の両面からの調査を実施する。

### 今回調査のポイント

- ・ 前回調査との比較
- ・ ヤングケアラーに関する質問を追加

## 子どもの生活実態調査

### (1) 調査対象

区分	総数(人)	対象数(人)	抽出率
就学前児童(5歳児)の保護者	3,903	各2,600程度	各60%以上
小学5年生	4,103		
児童 保護者			
中学2年生	4,394		
生徒 保護者			

※就学前児童の保護者については、地域のバランスを考慮し無作為抽出

※小学5年生及び中学2年生については、各学校のクラス数に応じて、60%以上の抽出率を確保できるようにクラス単位で抽出

### (2) 調査票の配布・回収方法

大分市内の小学5年生とその保護者及び中学校に在籍する中学2年生とその保護者については、各学校を通じて配付・回収を行う。

就学前児童(5歳児)の保護者については郵送により配布・回収を行う。

## (3) 質問内容

世帯の構成・収入・就労・生活状況、子どもの生活習慣、学習習慣、自己肯定感など、内閣府が示した調査票様式例及び前回調査票に則した内容であり、設問数については、保護者及び児童生徒それぞれ30～50問程度を想定

### (質問例①)

(保護者向け)  
あなたはお子さんに、以下の物(事)を与えていますか。または、していますか。(それぞれ、1つに○)

項目	与えている(している)	与えていない(していない)	経済的に与えられない(できない)
①子どもの年齢に合った本	1	2	3
②毎年の新しい服・靴	1	2	3
③お誕生日のお祝い	1	2	3
④毎月のおこづかい	1	2	3
⑤スマートフォン・携帯電話	1	2	3
⑥1年に1回以上の家族旅行	1	2	3
⑦子どもの学校や幼稚園・保育園などの行事等への保護者の参加	1	2	3
⑧病院受診	1	2	3
⑨歯科受診	1	2	3

### (質問例②)

(児童・生徒向け)  
あなたがやっている家族のお世話の内容を教えてください。(それぞれ、1つに○)  
※このアンケートでいう「お世話」とは、もともと大人がするものと考えられる家事や家族の世話のことです。

項目	ほぼ毎日	週に3回以上	週に1-2回	月に数回	まったくしない
① 家事(洗濯の準備や掃除、洗たく)	1	2	3	4	5
② 兄弟姉妹の世帯や保育所等への送り迎え	1	2	3	4	5
③	1	2	3	4	5
④ その他	1	2	3	4	5

## 子どもの支援機関に対する資源量調査

### (1) 調査対象

市内の保育所(園)、認定こども園、幼稚園、小中学校、義務教育学校、子ども食堂などの子どもの支援機関から計426カ所を予定

### (2) 調査方法

市内の支援機関等へのアンケートを実施

### (3) 調査票の配布・回収方法

本市の施設以外の施設については郵送により配布・回収を行う。

### (4) 質問内容

支援者側からみた子どもの生活実態・課題等の把握が可能な質問など前回調査票に則した内容とし、設問数については、10問程度を想定

### (質問例)

(子どもの支援機関向け)  
困難を抱える家庭に対する支援を行う中で、特に悩んだり難しかったことは、どのようなことですか。(○はいくつでも)  
1. 相談する場所がなかった・わからなかった  
2. 支援を行いたくても予算がなかった  
3. 支援を行うノウハウがなかった  
4. 子どもと連絡がとれなかった  
5. 保護者と連絡がとれなかった  
6. 多忙で対応できなかった  
7. 専門的知識のある職員が不足し、対応できなかった  
8. どこまでかかわる必要があるのかが、わからなかった  
9. 特定の家庭を特別に支援することへの批判が懸念された  
10. 対応できる体制がなかった  
11. その他(具体的に)

## 3. スケジュール(予定)

調査票の配布・回収 令和5年8～9月  
報告書の公表 令和6年 3月